



編集発行：静岡県青少年育成会議

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3305  
事務局（静岡県教育委員会社会教育課内） FAX 054-221-3362  
e-mail: kyoui\_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

## CONTENTS

- 令和元年度静岡県青少年育成会議総会・情報交換会…………… 1
- わたしの主張 2019静岡県大会…………… 2・3
- レポート 令和元年度「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業」  
静岡県青少年育成会議について…………… 4



## 支えたい 若者の未来

### 令和元年度 静岡県青少年育成会議 総会・情報交換会開催

#### 「基本方針」

「ふじのくに」県民総がかりの  
子供・若者育成支援活動の推進

#### 活動テーマ【平成29年～令和元年度共通】

子供・若者のより良い人間関係を育む  
県民運動の推進

令和元年度、本会議総会および情報交換会を、6月6日(木)静岡県青少年会館を会場に開催いたしました。総会では、平成30年度事業報告・収支決算報告、令和元年度活動テーマ・事業計画・収支予算の全ての議案が満場一致で承認されました。

今年度は、会員相互のネットワークづくりを促進するために新たに作成した冊子「会員情報誌」の紹介が事務局よりありました。是非、ご活用ください。

総会に続いて行った情報交換会では、特定非営利活動法人COMPASの栗山恵代表理事による事例発表(上の写真左下)や、今後の育成会議の果たす役割や活動テーマの具現化に向けたグループワーク(上の写真右下)を実施しました。各グループからも活発な意見が出され、会員相互の理解やネットワークづくりが促進され、子供・若者の社会参加や社会参画を促すための情報交換となりました。



# 「わたしの主張2019」静岡県大会開催

第41回「わたしの主張2019」静岡県大会  
 今、中学生が伝えたいこと」が8月21日  
 (水) 磐田市竜洋なぎの木会館を会場に開催  
 されました。「わたしの主張」は、昭和54年  
 の国際児童年をきっかけに開催され、今年で  
 41回目を迎える歴史ある大会です。

県大会では、160校、14,076点の  
 応募の中から事前審査で選ばれた13名の中  
 学生が、日常生活の中で感じていることや、  
 未来への想いなどを、若者らしい自由な発想  
 で生き生きと発表しました。

また、大会当日は、磐田市立竜洋中学校弦  
 楽部・吹奏楽部による演奏や、磐田市立城山  
 中学校合唱部による合唱が行われ、今年も  
 感動と笑顔があふれる大会となりました。

## 最優秀賞

## 地域と共にある生徒会

—今、私たちにできること、すべきこと—

静岡市立清水両河内中学校三年

## 望月 香琳さん



三十六人、  
 これは、私が  
 生徒会長を務  
 める中学校の  
 全校生徒の人  
 数です。私は、  
 生徒会長にな  
 るにあたって  
 「地域と共に  
 ある生徒会」  
 という目標を  
 掲げました。三十六人という少人数で充実  
 した生徒会活動を行っていく方法を模索し  
 ていた私の頭に、すぐに浮かんだのは地域  
 の人々の存在でした。小さい頃からいつも  
 気にとめ、声をかけてくれる地域の人たち、

行事があるたびにに参加し、活動を支えてくれる地域の  
 人たちは、私たちの生活になくてはならない存在です。  
 だからこそ、生徒会活動と切り離して考えることなど  
 できないと思ったのです。そこで私は生徒会活動を通  
 じて、中学校にできる地域貢献がしたいと思い、この  
 目標を立てました。

そして、その集大成として位置づけたのが「小学校  
 と中学校の合同体育祭」でした。私たち両河内地区で  
 は、9月になると毎週のようにどこかの学校や地区で  
 体育行事が行われています。地域に活気があふれ、一  
 体感が生まれる、とても楽しみな行事なのですが、最  
 近では、少子高齢化や共働き世帯の増加で、毎週末、  
 ほぼ同じメンバーが出場したり応援したりすることが  
 負担になりつつありました。

そのため、もう少し地域の実情に合った開催方法が  
 ないかと、私たち中学生も思っていました。地域の体  
 育祭と中学校の体育祭を同時開催してはどうだろう  
 か。でも、広い両河内地域の人たちが一か所に集まる  
 のは難しいだろうかと思案していた私たちの耳に入っ  
 てきたのが、「小中統合」という言葉でした。中学校  
 だけでなく地域にある三つの小学校でも年々、児童数  
 の減少が深刻で、数年後に三つの小学校と中学校を統  
 合させてはどうかという話が進んでいたのです。私た  
 ちはこれを聞き、一緒にすることが決まっていますのな  
 ら、その先駆けとして今年は小学校との合同体育祭を  
 企画してはどうかと考えました。数年先の統合に向け  
 て、まずは体育祭という一つの行事を一緒に行うこと  
 で、地域に貢献できるのではないかと思ったのです。  
 統合後の活気ある姿や九学年の子どもたちが、お互い  
 に助け合い、楽しむ姿を示すことこそ、私たち中学生  
 が今できる地域貢献、恩返しだと考えたのです。

この思いを先生方に相談し、小学校側の考えも聞い  
 た上で出たのが、「両河内中学校と和島小学校との  
 合同体育祭」という案でした。いきなり三つの小学校  
 と一緒にするのは難しかったため、まずは今年、隣の小学  
 校と合同で開催し、その成果と課題を把握しながら、  
 徐々に合同の輪を広げていくことにしたのです。小学  
 校の了承を得て、いざ具体的な内容を考えていこうと

意気込んでいた矢先、中学生の中から合同体育祭反対  
 の声が上がったのです。これは私にとって、驚くべき  
 ことであり、初めは全く理解できませんでした。しか  
 し、話し合ってみると「中学校最後の体育祭は自分た  
 ちだけで盛り上がりたい」という素直な思いを訴える  
 意見や「小学生と中学生は体力差があるため同じ競技  
 をやるのは危険ではないか」というもつともな意見も  
 聞かれました。たった三十六人ですが、思いや考えは  
 様々であり、意見を押し付けただけでは上手くいかな  
 いことを思い知らされました。何度か話し合いを重ね、  
 ようやく全校に自分たちの思いが伝わり、今、私たち  
 は合同体育祭という歴史の一ページを築くスタートラ  
 インに立つことができました。具体的な競技内容や小  
 学生との練習方法など、まだ検討事項は山積みで、正  
 直不安もあります。

しかし、令和元年の今年、統合に向けた先駆けとな  
 る体育祭に携われることに喜びを感じ、全力を尽くし  
 ていきたいと思っています。

そして、「地域と共にある生徒会」のスローガンの  
 もと、活動してきた集大成として今、自分たちにでき  
 る精一杯の感謝と熱意を込めて、この合同体育祭に取  
 り組んでいきたいです。



司会を務めた 磐田市立竜洋中学校  
 田中 壮汰さん 岩田 七海さん



会場の中学生の投票で決定する「共感賞」  
 は、地元の中学生が取りまとめました。



## 「笑顔条約」

御殿場市立西中学校 3年 梅原 希愛さん

『Smile』みなさんにとって笑顔とは何ですか？私にとって笑顔は心と心をつなぎ、言葉の壁を越えるものだと思います。去年行ったアメリカで、不安から抜け出せたのも周りの人の笑顔のおかげでした。国や言語を越えることが出来る笑顔の力を考えました。

## 「食品ロスをなくそう」

湖西市立新居中学校 3年 大村 麻理依さん

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品ロスについて考えました。食品ロスは、もったいないだけでなく貧困問題や地球環境にも影響を及ぼします。とても大きな課題のように思われますが、私たち中学生でも一人一人の心掛け次第で食品ロスは減らせます。そのことを知ってもらいたいです。

## 「特産物を守るには」

静岡市立藁科中学校 3年 中川 理央さん

私の生まれた水見色は、昔から地域の特産物である「本山茶」の生産が盛んでした。私の祖父母も代々続くお茶農家です。しかし、近年、お茶の価格の値下がりなど様々な問題に直面し、後継者が減っています。私自身も祖父の茶畑を守りたいと思う一方で夢を捨てることはできません。

## 「自分で考えるということ」

島田市立川根中学校 3年 村松 亜美さん

「自分で考えるということ」について、インターネットの普及や授業中の体験、また過去の自分自身の具体的な思いから深く掘り下げています。そして、「自分で考えるということ」は他に依存することはない、まぎれもない自分自身の価値ある行為であることを主張したいと思います。

## 「心の壁を越えるもの」

御殿場市立原里中学校 3年 三改木 梨乃さん

AI 翻訳機など、技術の進歩によって言葉の壁が消える日も近いでしょう。しかし、言葉が通じれば心も通じ合えるのでしょうか。アセアンの中学生との交流を通し、人種や宗教などの壁を越えて心を通わせるために必要なものは、通じ合おうとする気持ちだということに気付くことができました。

## 「家族のカタチ」

磐田市立豊田南中学校 3年 神谷 まゆみさん

外国人の母と再婚してできた新しい父、そして私との関係や苦勞、複雑な感情など、私の体験したことや思ったことをありのままに伝えました。家族の中で生じる問題は、国籍とか人種とかに関係なくどの家族にも起こりうると思います。家族とは何かについて考える契機となればうれしいです。

# 今、伝えたい!! この思い

大会に出場した中学生の思い  
(発表要旨より)



## 「変わる瞬間」

浜松市立佐久間中学校 3年 竹本 菜々美さん

自分が変わる瞬間はいつ来るかわかりません。でも、きっかけは毎日の中にあります。私は母校の閉校を通して向上心と向き合う経験をしました。自分を超越することはとても苦しいけれど、それ以上に新しい自分との出会いは楽しく刺激的です。私はまだまだ変わります。私は私の未来に夢中です。

## 「失って分かったこと」

不二聖心女子学院中学校 3年 亀和田 凜さん

祖母と過ごした時間の中で最も大切な6年間で、私は人生における価値あるものとは、お金や物ではなく、大切な家族や友人、その人達と過ごした日々と思い出だということを知りました。祖母とのキラキラした思い出と共に、私は私の人生を一生懸命生きていきたいと思っています。

## 「みんな生きている」

磐田市立豊岡中学校 3年 鈴木 星満さん

ある番組で捨てられたり虐待されたりした動物の保護シェルターを知り、私も保護猫を引き取りました。県では殺処分数を減らす数値目標を掲げています。国全体で殺処分0への意識を高め、「最後まで面倒を見るのだ」という強い覚悟や意識を持ってもらうことが何よりも大切だと思います。

## 「私にとっての音楽」

裾野市立東中学校 3年 室伏 萌衣さん

私にとって大好きな音楽が、いつしか自分を苦しめる存在となっていました。そんな私は、周囲に助けられることで、改めて自分、そして音楽と向き合うことになりました。その中で、新たな自分と私にとっての音楽の存在を再認識します。そして、新たな目標を持って音楽に向き合う自分がいます。

## 「京都で学んだ日本の知恵」

湖西市立白須賀中学校 3年 畑 堅仁さん

僕は、修学旅行先の京都で、外国人観光客に日本の良さを伝えようとする様々な工夫を知りました。まもなく東京オリンピックが開催されます。海外からたくさんの観光客が訪れ、世界から注目される背景や、京都の人々から学んだことを、これからの生活に生かそうと考えるようになりました。

## 「知る」

浜松市立高台中学校 3年 池上 彩花さん

誰よりも近くにいる家族のことを一人の悩みと幸せを持つ人として、どのくらい知ることができているのでしょうか。「知る」ことの大切さを祖父の病をきっかけに改めて感じました。お互いのことを会話を通して「知ろうとすること」が、よりよい関係、繋がりに直結するのだと思います。



# 組織を強靱化する「2・6・2」の原則

## 「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業」 関東甲信越静岡ブロック研修会

内閣府主催の標記研修会が、9月18日(水)に、静岡市にあります「もくせい会館」で開催されました。全体会に続き、2つに分かれて実施された分科会では、本県を代表して、当会議の古川賢吾副会長(NPO法人スマイルプロジェクト理事長)と鈴木恵子運営委員(認定NPO法人魅惑的倶楽部理事長)が、司会・進行を行うとともに、当会議所属団体の「童親会」の大西国明代表が「子ども・若者がともに楽しみ、成長できる拠点活動について」をテーマに事例発表をしました。



童親会 大西国明 代表



鈴木恵子 運営委員



古川賢吾 副会長

童親会は、地域の子供を対象に「遊び塾」を展開する団体で、発足して20年以上、常に若手指導者が20名程度いて安定した活動を行っています。大西代表からは、「継続した拠点づくりに必要なこと」の一つは、目立たない子供・若者を見逃さない取組「2.6.2」の原則を意識して活動することであるといった発表がありました。『活動に参加してくる2割の子供は、指導者が声をかけなくても自分から楽しみ、6割の子供は周りに合わせて楽しむことができ、残りの2割はなかなか周りに馴染めずひっそりとしている。指導者として、活動や仲間に馴染めないその2割の子供に対して、いかに声をかけ支援ができるかが重要で、それによって、後の参加状況に大きな影響が出てくる。このことは子供だけでなく、初めて参加してきた指導者であっても同じことがいえる。』という内容で、「参加してきた子供や指導者を大切に」といった基本姿勢を保つことが活動を継続するうえで重要であることを参加者と共有することができました。

### 私たちと共に

## 若者の未来を応援しませんか！！

会員数 177 (35 市町民会議、138 団体、4 個人会員)

会員情報につきましては静岡県教育委員会社会教育課ホームページで

静岡県青少年育成会議

検索



「地域の子供は、地域の大人が育てる」

令和元年度 わたしたちは

静岡県青少年育成会議

に所属しています。



### 青少年育成会議とは？

青少年育成会議は、「明日の郷土を担う青少年づくりは県民全ての手で」を合言葉に、地域に根ざした青少年育成活動を展開するため、昭和42年に発足しました。現在は、県内の青少年、女性、教育、スポーツ・文化、医療・福祉、経済・産業・労働等の関係団体・機関・個人を加えた177の会員で構成され、**地域の子供・若者の健やかな成長を支援**しています。

静岡県青少年育成会議

正会員(個人・団体)、賛助会員

## 会員募集

【正会員】 個人会費：年額1,000円 団体会費：年額3,000円

【賛助会員】 年額一口5,000円とし、一口以上

静岡県青少年育成会議の活動は、当会議の趣旨に御賛同いただき、御加入いただいた会員の皆様によって支えられ、運営しています。

会員会費を有効に活用するために、会員団体が主催する青少年健全育成事業に対して補助金を交付する事業をはじめ、講演会や研修会の御案内、広報紙や啓発リーフレットの送付、会員同士のネットワークづくりや情報提供等も行っています。

【お問い合わせ】 静岡県青少年育成会議事務局 (静岡県教育委員会社会教育課内) TEL: 054-221-3305